

## 会員コラム

### 世界の音環境シリーズ, その① ベルギー編

会員の皆様こんにちは。世界の音環境シリーズその①, ベルギー編を担当させていただきます, 当学会の理事の上田と申します。私事ながら2017年4月より, 縁あってベルギー・フランダース地方のゲントという街にそびえるゲント大学のAcousticsのラボで, 空中超音波の研究をしています。当該ラボのボスは, Dick Botteldooren 教授といい, 現在ABAV (Belgian Acoustical Society) の president, EAA (European Acoustics Association) の vice president を務めています。

それはさておき, 今回は音環境シリーズということで, 私の方からはベルギーの騒音・音環境について簡単にレポートさせていただきます。それでは早速, 航空機騒音から参ります。とは言え, あくまでも主観でのレポートですので, 詳細等の事実確認はご自身でされてください。よろしくお願い致します。

#### ●ベルギーの主要空港であるブリュッセル空港周辺の航空機騒音問題について

当該ラボでは, ブリュッセル空港の環境レポート(主に大気と騒音)を毎年作成しています。実際に同僚がノイズコンターを描いています。Dickや同僚の話によると, ブリュッセル空港での騒音問題で最も重大な問題は, ポリティカルな問題であると。ここでいうポリティカルな問題とは, 騒音レベルがそこまで高くない地域からの苦情で, 特に高級住宅街や政府関係者からの苦情が最も多いそうです。航空機自体の騒音レベルが低減されつつある現代はやはり低騒音での騒音問題がベルギーブリュッセル空港でも発生しているようです。余談ですが, ゲント上空はほとんどがその他のヨーロッパ便のオーバーフライトとのこと。飛行機雲が一度に何本も交わる空はとても美しいです。

#### ●道路交通騒音

ゲントでは, 数年前にエリア毎にゾーンが指定され, 通行の規制が多数なされたようです。そのことにより, 特に住宅周辺での道路の一方通行, 速度規制が行われています。ドイツ・ベルリン等では, 騒音に配慮して速度規制がなされていますが, こちらは渋滞の防止などの理由がメインのようですが, それらの規制により住宅街は特にとても静かです。

#### ●鉄道騒音

こちらでは鉄道が走っているそばには住宅がほとんどなく, 駅が近づくと, 住宅や街が広がりますが, 大抵の場合速度を大幅に減速しています。ゲントからブリュッセルまでの間には, 風車や牧場地帯が広がっているのが目につきます。※余談ですがヨーロッパでは家畜動物等への騒音影響が一部から指摘されているようです。

#### ●住宅の騒音と条例

ゲントでは, 22時以降は静かにするという条例があります。しかしながら, 隣同士がつながっているヨーロッパの伝統的な住宅では生活騒音(特に固体音)がだだ聴こえの場合があり, 私もそのタイプの家に2か月ほど住みましたが, 隣の家の足音や洗濯機の音等にはとても困りました。

最後に, 街のサウンドスケープ(音風景)とバリアフリーについて簡単に紹介します。

ゲントの主要駅からほど近い, 比較的交通量の多い街中の住宅でも鳥の鳴き声で目覚めることができます。至る所にある教会の鐘の音も, 鳥の鳴き声もこんなに自然で生活の中に溶け込んでいると感じたのは初めてのことでした。熊大K井先生, 鳥の鳴き声って本当に美しいですね…。

バリアフリーについてですが, ゲントをはじめ, ベルギーはお世辞にもバリアフリー整備がなされているとは言い難い状況です。電車やトラム・バスの段差はもちろん, 音サインもカタカタという音響式信号機がある程度で, 駅でのアナウンスや発車ベルなどもほとんどありません。その良し悪しや文化の違いや社会背景の違い等はさておき, 日本に比べてとても静かです。

インフラの整備は今後の大きな課題ですが, 私がゲント(ベルギー)で感じたのは, 人為的なサポートがとても自然に日常的であるということです。例えばトランクを持って電車の乗り降りをしようにしていたら, 必ず誰かが手伝ってくれます。トラムのチケットの買い方がわからないでいると, 誰かが声をかけてくれる国です。バリアフリーに限らず, 人と人の距離が日本より近いように感じます。挨拶だけでなく, 他人同士が街でたまたますれ違った時, 「(見えている)あの花素敵よ!」「そのピアス可愛いね!」のような他愛もない会話がとても自然に繰り広げられる温かい街です。ベルギーと言えば, チョコレート, ワッフル, ビール, そしてテロが有名ですが, 心のバリアフリーは日本以上であることは自分自身が見習わなければと感じました。

最後に, 旅行以外での海外には興味が持てなかった小職の気持ちに変化を与え, 様々な国際活動を後押しするきっかけをくれた故上羽貞行先生(東工大)の口癖と, それを先生の葬儀の弔辞で伝えてくださった中村健太郎先生(東工大)に感謝して, 上羽先生の口癖をご紹介します。

「言語は英語, 世界は友達」。

若者よ。騒音の研究を通して一緒に世界へ羽ばたこう。

(上田麻里)